

令和7年3月3日発行

栗原普及センターだより 「くりはら」

159号



左：川口グリーンセンター 代表取締役 白鳥正文 氏
右：同社 専務取締役 尾崎和弘 氏

有限会社川口グリーンセンターが 内閣総理大臣賞を受賞しました！



令和6年11月23日（土）に明治神宮会館で第63回農林水産祭式典が執り行われ、多角化経営部門で内閣総理大臣賞を受賞した、有限会社川口グリーンセンター（栗原市一迫）に賞状が授与されました。

同社は、「ふるさとを明るく元気に賑やかに」という方針のもと、中山間の水田地帯で水稻約80haと花きの生産を行い、米の通信販売や輸出などの他、米粉パンの製造・販売など、米にこだわった多角的な経営を行っています。

この度は誠にありがとうございます！

令和6年度プロジェクト課題活動報告

課題NO.1 金成有壁地区の活性化ビジョンの実現

金成有壁地区において、農地整備を契機に地域の活性化を図るために令和2年に策定された「農村地域活性化ビジョン」の実現に向けて活動する有壁創生会の取組を支援しました。

地区内で栽培されている酒造好適米品種「吟のいろは」を生かした地元の萩野酒造株式会社との連携強化を働きかけた結果、田植え・稲刈り体験等の交流イベントが開催されたほか、「吟のいろは」の栽培や活用に向けた両者の意見交換が行われるなど、お互いの情報共有も図られました。

また、農業法人の設立による担い手構想の実現に向けて、法人の方向性について検討するとともに、「有壁だより」による地域内への周知、法人設立に向けた意向調査の実施、その結果を受けての

法人の基本事項の検討が行われました。

来年度も「農村活性化ビジョン」の実現に向け、継続して支援していきます。



【稲刈り体験交流イベントの様子】

課題NO.2 加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による収量確保

栗原地域では、令和4年度から「たまねぎ」を地域振興品目に位置づけ、関係機関と一体となり生産振興を図っています。大規模で作付する場合、育苗や定植作業にコストが掛かるため、さらなる面積拡大に向けて直播栽培が注目されています。

令和6年収穫の直播たまねぎは、雑草やべと病の発生による減収が課題となったため、対策を検討し、次作に向けた支援を行いました。例として、雑草については、除草剤とRTK搭載トラクターによる除草機の併用による除草体系を組むことで、一定の効果が示されました。

9月18日には、みやぎRTK利用拡大コンソーシアムと連携した現地研修会を開催し、60名以上の参加者が見守る中で直播たまねぎの畝立て同時播

種やドローンによる薬剤散布など、効率的な作業体系の実演を行いました。

収量向上に向けた課題は残されているため、生産者と認識を共有し、今後も改善に向けて支援していきます。



【たまねぎ収穫作業の様子】

課題NO.3 土地利用型経営体大豆多収穫技術の体系構築による単収の向上

栗原管内では大豆の収量が県平均より低いことが課題となっています。今年度から、若柳地区の町館宮農組合と志波姫の個別経営体を対象とし、大豆の収量・品質向上のための栽培技術支援を行っています。

今年度は、大豆の栽培管理作業の精度について評価を行う「大豆栽培チェックリスト」や、ほ場毎の排水条件や雑草の発生、大豆の生育状況を記録し、栽培管理作業内容を組み立てるための「大豆栽培支援マップ」、大豆と水稻の栽培管理作業が適期に実施されているかを検証する「水稻・大豆作業競合回避チェックシート」を作成・活用・評価し支援を行いました。

また、RTK直進アシストトラクターによる作業

実演会を開催し、精度の高い作業の必要性が改めて理解されました。

来年度に向けて課題も出てきており、生産者や関係機関と情報共有を図り、継続支援していきます。



【RTK直進アシストトラクターによる実演会の様子】

品評会で栗原市産品が多数受賞！

令和6年度の品評会では、栗原管内から、うるち玄米16点、花き17点が出品されました。審査の結果、下表の6名の方々が受賞され、栗原市産品の品質の高さをアピールすることができました。受賞された皆様、誠におめでとうございます。

【令和6年度宮城県農林産物品評会・花き品評会受賞結果一覧】

部 門	受賞品目	受賞者名	受賞内容
うるち玄米	ひとめぼれ	有限会社 狩野農友	知事賞2等 農協中央会代表理事会長賞
切り花・枝もの類	ディスバットマム	高橋 伸勝	銀 賞
切り花・枝もの類	スプレーぎく	白鳥 慶	銀 賞
切り花・枝もの類	ディスバットマム	白鳥 幸彦	銀 賞
花壇用苗もの類	パンジー	岩淵 光男	銀 賞
花壇用苗もの類	ハボタン	高橋 敦司	銀 賞

今年度新たに認定された農業士の皆様を紹介します！

県では、優れた農業経営を実践して、地域農業の振興及び農村青少年等の育成に貢献している農業者を、指導農業士又は青年農業士として認定しています。前号に引き続き6名認定されたうちの3名を紹介します。



指導農業士 相馬 香織 さん(栗原市志波姫)

水稻と大豆の土地利用型の農業経営を行っています。特に水稻部門は、消費動向に対応して複数の品種を計画的に栽培するなど、労働時間の平準化や作業効率の向上に努めながら経営規模の拡大を図っています。



指導農業士 白鳥 拓也 さん(栗原市一迫)

水稻（種子生産）と施設花き（菊、マム）の複合経営を行っています。特に施設花きでは、従来の切り花菊のほか、洋花としてのマムの生産に力を入れてきており、施設内を区画ごとに管理し冬季を除き切れ目のない出荷を実施しています。また、平成29年度から青年農業士として活動いただきましたが、今年度からは指導農業士として引き続き活動していただきます。



指導農業士 大内 貴生 さん(栗原市瀬峰)

平成30年に株式会社大内ファームを設立し、経営の主体者として水稻+ホールクロップサイレージの土地利用型の複合経営を行っています。特に水稻部門は、規模拡大を図りながら農業機械の効率的利用と作期分散を図るため多品種の栽培に取り組んでいます。また、平成30年度から青年農業士として活動いただきましたが、今年度からは指導農業士として引き続き活動していただきます。



みやぎ農業未来塾inくりはら「スマート農業の推進」研修会を開催しました！

令和7年2月19日（水）に、栗原合同庁舎において、就農1～5年目の新規就農者（雇用就農を含む）等を対象に、みやぎ農業未来塾in くりはら「スマート農業の推進」研修会を開催しました。

研修会では、宮城県スマート農業コンシェルジュの庄子一郎氏より、スマート農業の導入と活用の方法やスマート農業の推進に係る国、県の支援策について講演をいただきました。管内では衛星測位情報を活用した、農業機械自動操

舵システムやドローンを導入した経営体も増えており、参加者も高い関心を示していました。



【研修会の様子】

栗原の園芸セミナーを開催しました！

令和7年1月31日（金）に、栗原市や新みやぎ農業協同組合との共催で「園芸振興セミナー」を開催し、関係者含め50名にご参加いただきました。

今回のセミナーは、高収益作物をイチから学ぶことをテーマに実施しました。特に振興を図っている「たまねぎ」と「さつまいも」については、全国農業協同組合宮城県本部園芸振興課の鈴木氏にご講演いただき、「畑わさび」については、加美町で先駆者として生産を行うジェルマン合同会社の菊地氏にご講演いただきました。

参加者からは、今後園芸品目を導入していく上で大変参考になったとご意見をいただきました。普及センターでは、今後も園芸作物の生産拡大に向けて支援していきます。



【わさびの講演の様子】

＊ ふぁーみんぐ女子会を開催しました ＊

令和7年2月12日（水）に、栗原市築館で、「ふぁーみんぐ女子会～ひろげよう、交流の輪！新たな出会いと発見を～」を開催し、県北3農業改良普及センター（大崎・栗原・美里）管内の女性農業者等8名が参加しました。

初めに、県北地域で活躍する女性農業者3名に事例発表をしていただきました。次に、グループに分かれて参加者同士の交流会を行いました。

参加者からは、地区や市町村といった枠を超

えた交流を行うことができ良かったとの声が聞かれました。



【交流会の様子】

